熊菌会報

October 2019
10
No.760

熊本県歯科医師会
Kumamoto Dental Association

CONTENTS

- 巻頭言（専務理事　牛島 隆）……3
- 理事会報告……4
- 国保報告……6
- 各郡市執行部紹介……7
  （荒尾市、下益城郡、天草郡市、宇土郡市）
- 委員会紹介……9
  （センター・介護、地域保健、学校歯科）
- 郡市会報告……15
  （上益城郡、球磨郡、天草郡市、下益城郡、玉名郡市）
- リレー投稿㉞……18
- 訃報……20
- 新入会員……20
- 会務報告……21

― 歯科医師の倫理綱領 ―

われわれ歯科医師は、日頃より歯科医学および歯科医療の研鑽を通じて培った知識や技術をもって、人々の健康の回復と疾病の予防のために貢献するものである。

一、専門職として歯科医学と歯科医療の発展のために尽くし、医療倫理の実践に務める。

一、専門職であることを念頭に、法を遵守し適切な説明を行い、常に愛情を持って患者のために社会的使命を果たすように努める。

一、自己の知識、技術、経験を社会のために提供し、社会福祉および国民の健康向上のために努める。

公益社団法人 日本歯科医師会

表紙に寄せて

サクラマチ・クマモトが開業しました。時間帯を変えて数回出向きましたが、昼と夜では建物の表情も、雰囲気も違って見えます。お隣の花畑公園には御神木の大クスノキが、幾度の災害や戦火に耐え青々とそびえ立っていました。熊本駅周辺の再開発と合わせて、熊本の街の活性化に繋がることを期待します。

（A.K）

人生100年時代を歯科医師会はどう迎えるか

専務理事　牛島　　隆

今期新たな伊藤執行部でも、前期に続き専務理事を拝命いたしました。よろしくお願い致します。

さて、経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）2019に、2018に引き続き示されている、生涯を通じた歯科健診の充実、歯科口腔保健の充実に加え、エビデンスの信頼性の向上、フレイル対策への関わり、介護、障害福祉関係機関との連携が明記されたことについては、すでにご存じのことと思います。一方で、あまり知られていないのが、安倍首相が議長をつとめる未来投資会議で取り纏められ、閣議決定された「成長戦略実行計画案」です。AI、ロボット、ビッグデータなど第４次産業革命のデジタル技術とデータの活用は令和の新時代において、これからの産業に幅広い影響を及ぼすため、我が国を自律的な成長に導くための戦略の一つとして、労働生産性上昇を実現するためのインフラ、ルールを整備するさまざまな方針が盛り込まれています。その中に全世代型社会保障への改革があり、それを実現させるための疾病予防、介護予防を推進するための項目の中に「全身の健康にもつながる歯周病などの歯科疾患対策を強化するため、現在10歳刻みで行われている歯科健診の機会を拡大し、～中略～速やかに結論を得る。あわせて、歯科健診の受診率の向上を図るとともに、健診結果に基づき、必要な受診を促す実効的な取組みや、全身疾患の治療が必要な可能性がある場合の医科歯科連携を推進する。」と記載されているのです。

人生100年時代と言われるようになりました。平均寿命は男性約81歳、女性約87歳ですが、早く亡くなる人もいるので、死亡のピークは男性87歳、女性は93歳だそうです。一方で、これまで団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年が越えるべき峠とされてきましたが、気が付くと2025年は目前で、その先に2040年という、より高い峰が控えています。2040年は団塊ジュニア世代が70歳を超える年であり、日本の人口は約１億1000万人に減少し、高齢者人口がピークを迎え、1.5人の現役世代が１人の高齢世代を支えるかたちになり、社会保障費が大きく上昇すると言われています。

歯と口の健康は全身の健康に影響することは自治体も企業も、県民も理解してきています。生涯にわたる歯科健診を実現する体制をいかに作っていくかは、我々に求められている大きなテーマです。しかし同様に大切なことは、病気を予防し、社会保障費を抑制するためには、健診の先に会員の診療所で適切な治療と疾病の予防が行わなれるような形づくりと歯科側のスキルアップも並行して行なっていくことです。人生100年を豊かに送るために歯科医療関係者の責務は益々高まるでしょう。そのために歯科医師会として何をすべきかを、伝統を重んじながらも新しい時代へ、あらたな課題に取り組むべく、若くなった新執行部で会長を支えて参りたいと思っております。

理事会報告

横のつながりをしっかりと持った委員会活動を

― 第４回理事会 ―

８月27日（火）午後７時から県歯会館において、伊藤会長他増田監事を除く全役員の出席のもと開催された。

１．開会：椿副会長

２．挨拶：伊藤会長

新執行部発足後に各委員会が複数回開催されましたが、会務にはもう慣れましたでしょうか。委員会での意見等はしっかりとまとめて理事会に報告いただきますようお願いいたします。私自身は日歯の理事に就任しておりますが、時間の許す限り、日歯でも頑張ってまいります。また、私が日歯の学術委員会及び生涯研修事業を担当している関係で、来月１日よりサンフランシスコで開催されるＦＤＩ世界歯科大会へ行ってきます。日歯の学術委員会は、馬場理事が委員に就任されていますので、実感されていると思いますが、会務が膨大で、Ｅシステムの審査業務も厳しく実施しておりますので、大変な苦労をされていることと思います。また、歯科医師会とは別の話ですが先日、日歯連盟臨時評議員会に出席しました。会議では、第25回参院選で比嘉候補が落選したことに伴う高橋会長の信任の動議が提出されました。動議では信任の選挙を実施すべきとの意見が出されましたが、結局動議は却下されました。よって、高橋会長及び本県の浦田理事長は引き続き日歯連盟の指揮を執られることになります。我々歯科医師会は連盟と共に協力し活動していかねばなりません。皆様もご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。それから、11月初旬に本会次年度予算折衝が始まりますので、委員会で事業計画・予算案を練り上げていただきたいと思います。そして、常に申していますように委員会間の横のつながりをしっかりと持って、担当所管外の委員会に対して何か協力出来ることは無いかを考えていただきたいと思います。執行部の方針の一つは会員の生活の安定ですが、社会保険分野だけで実現するものではありませんので、増患を如何にするかを考えなければいけません。そのために、例えば学校歯科の分野では、学生の受診率が低いので、これを如何に上げるかという課題があります。さらに地域保健の分野では、定期歯科健診を企業等でも幅広く実施していかねばなりません。本日もよろしくお願い申し上げます。

３．議長選出：伊藤会長

４．議事録署名人：水上監事、伊藤会長

５．令和元年度会務報告：

（自：７月29日～至：８月22日）

本会総務：理事会、常務理事会、在宅歯科医療連携各郡市担当者会

地域保健：低ホスファターゼ症講演会

広　　報：『熊歯会報』９月号の校正

医療対策：医療相談・苦情事例報告

センター・介護：口腔保健センター管理運営委員会

医療連携：医療連携委員会

学　　院：理事会、学院体験入学

以上、各担当役員より報告がなされた。

６．報告事項：

１．関係機関・団体からの役員等の推薦依頼

⑴　熊本県エイズ対策会議委員　工藤智明 理事　熊本県健康福祉部健康危機管理課　任期の定めなし

⑵　熊本県後期高齢者医療運営協議会の委員　牛島 隆 専務理事　熊本県後期高齢者医療広域連合

関係機関・団体の役員等に推薦したことを報告した。

２．タウンミーティングの開催

希望する郡市でタウンミーティングを開催することを報告した。既に各郡市へ案内を出しており、希望日時を確認して日程調整を行う。

３．駐車場の借地料

坪井変電所の外柵建替え工事について、会館の駐車場を工事作業スペースと

して使用することへの借地料として10万円支払う旨の申し出があり、一時使用賃貸借契約の締結を報告した。

4．女子ハンドボール世界選手権における傷病者受入依頼

女子ハンドボール世界選手権開催期間中の傷病者受入依頼について、各郡市へ対応依頼したことを報告した。

5．災害歯科保健医療体制研修会参加者照会

各郡市及び県歯科衛生士会に災害歯科保健医療体制研修会参加者を照会していることを報告した。

6．シニア倶楽部の開催

９月14日（土）午後６時よりホテル日航熊本で開催することを報告した。

7．救急講座への参加者

９月14日（土）午後２時より県医師会で開催される救急講座について１団体５名以上の参加要請があり、役員に参加を呼び掛けた。

8．事業報告書

⑴　６月末がん及び回復期の医科歯科連携事業

⑵「低ホスファターゼ症講演会」（８月10日）地域保健

9．７月末会計現況

7．連絡事項：

1．９月行事予定

8．承認事項：

1．新入会員の承認【承認】

第１種会員１名、第３種会員１名の入会を承認した。

第１種

氏　名	医療機関名	住　所	出身大学
匠原（しょうはら）　健（けん）	しょうはら歯科口腔機能クリニック	熊本市中央区帯山3-7-33	九州歯科大学

第３種

氏　名	医療機関名	住　所	出身大学
田村（たむら）　知丈（ともひろ）	吉永歯科医院	宇城市松橋町浦川内824-8	岡山大学歯学部

令和元年度入会状況（８月末累計）

第１種会員／12名　第２種会員／５名

第３種会員／９名　第４種／０医療機関

2．後援名義の使用依頼【承認】

⑴　熊本県人権教育研究大会

⑵　第15回九州矯正歯科学会大会（熊本）

⑶　熊本県歯科衛生士会第11回県民公開講座

後援名義の使用許諾を承認した。

3．歯の健康ランド共催【承認】

共催の許諾を承認した。

9．議題：

1．九州歯科医学大会in熊本【承認】

令和２年10月17日（土）午後１時30分より熊本城ホールで九州歯科医学大会を開催することに伴い、準備委員会を立ち上げることを承認した。

2．令和元年度（第35回）新入会員研修会【承認】

令和２年２月８日（土）午後２時より県歯会館で開催することを承認した。

3．本会・学院の火災保険契約の更新【承認】

２社相見積もりの結果、損保ジャパン日本興亜で５年契約にて更新することを承認した。

4．各郡市歯科医師会会長専務理事連絡会議【承認】

９月21日（土）午後４時より各郡市会長・専務理事連絡会議の開催を承認した。

5．中規模県歯科医師会連合会各県提出協議題に対する回答【承認】

提出協議題に対する回答を承認した。

6．株式会社ロッテ「健康に関する取組み」の提案【承認】

ロッテより、歯と口の健康週間等のイベントにおいて健康に関する取組みとして、本会とロッテ及び小売業と共同で啓蒙活動を実施する提案があり、この提案を承認した。

10．協議事項：

1．その他

●熊本県空港航空機事故対応総合訓練への参加【承認】

各郡市に参加を要請し、役員のなかで希望者があれば参加することを承認した。

11．監事講評：

水上監事より「本日の議題で出た、火災保険の保険料が今年10月から大幅に値上げされる前に契約更新することは非常に有益だと感じた。常に先々のことを考えて、県民と会員のために役員の職務を全うしてほしい。」と要望された。

12．閉会：宮井副会長

（広報　神﨑 理子）

国保報告　全議案が原案通り承認可決

― 第２回臨時組合会 ―

７月20日（土）午後２時から、県歯会館にて上記の会議が開催された。事務局による点呼が行われ、総議員30人中25人の出席により会議の成立を上野副理事長が宣言し開会された。新議員になり初めての組合会のため議長に田中議員（熊本市）、副議長に宮坂議員（山鹿）を選出し議事に入った。

―理事長挨拶―

本日、お忙しい中をお集まりいただきまして本当にありがとうございます。台風も来ておりますが、こういうふうに天気を見てみますと、そうたいしたことがないのかなという状況にあります。ただ、今から梅雨が明けまして、だんだんと暑い日も続いてまいりますので、先生方におかれましては、是非健康に留意なさって御活躍いただければと思っております。本日は令和元年度の第２回臨時組合会ということで、会務報告それと業務報告それと議題ということがございます。議題も５題ございますので、慎重審議のほどよろしくお願いして御挨拶とさせていただきます。本日は最後までよろしくお願いいたします。

次に議事録署名人に竹下議員（熊本市）、清藤議員（八代）が指名され、組合員物故者に対して黙祷が行われた後、続いて上野副理事長と桑田常務理事の会務報告・業務報告が行われた。

議題は以下の５議案が上程された。

第１号議案：平成30年度熊本県歯科医師国民健康保険組合歳入歳出決算について

第２号議案：平成30年度熊本県歯科医師国民健康保険組合歳入歳出決算剰余金処分（案）の承認について

第３号議案：平成30年度熊本県歯科医師国民健康保険組合役職員退職手当積立金特別会計歳入歳出について

第４号議案：平成30年度熊本県歯科医師国民健康保険組合役職員退職手当積立金特別会計歳入歳出決算剰余金処分（案）の承認について

監査報告：原田監事より適正に処理されている旨の報告が行われた。

第５号議案：平成29年度熊本県歯科医師国民健康保険組合歳入歳出補正予算（案）の承認について

第１号議案～第５号議案は、いずれも賛成多数で原案通り承認可決された。

この後、協議に入り執行部から今年度の状況を見ながら、可能であれば来年３月の組合会に給付費支払準備金積立の積み増しを提案させていただきたい。との説明が行われた。

最後に瀬井理事の閉会の辞で散会となった。

（守永 純一）

各郡市新執行部紹介

荒尾市歯科医師会（会長　田中　正）

①年間行事、事業

毎月の通常例会、理事会以外に９月以降の主な行事・事業は次の通り予定されている。

・いきいき健康づくり教育講座講演（10月開講）
・城北地区役員連絡協議会（11月）
・荒尾市防災訓練参加（11月）
・荒玉役員連絡協議会（12月）
・荒尾市健康福祉まつり参加（R ２．６月）
・三師会総会（R ２．７月）

②現在計画中の事業

・周術期、糖尿病連携事業、訪問歯科診療をからめた在宅医療連携事業（在宅ネットあらお）等の三師会連携事業の継続、推進
・会長の会議出務軽減として各会員に代行出務
・玉名郡市、大牟田市歯科医師会との様々な連携事業、福利厚生事業

③会の特徴

本会は全会員の支持を受け、田中正会長のもと２期目をスタートさせた。

今回、新たに疋田貴之会員に理事に復帰して頂き、１人執行部を増やしたことにより「会員全員が会務に携わり、荒歯会を盛り上げていきたい」という会長の意向を更に反映させやすくなり、引き続き年長会員を除く会員を各委員会に割り振り、各会議等の出務も分散化させる計画である。

また会員相互の親睦が様々な場面ではかられており、会の運営は順風であり、三師会とも良好な関係が維持されており連携事業にも積極的に取り組め、引き続き実績を残すため邁進していくだけである。

（坂田 輝之）

下益城郡歯科医師会（会長　吉永　修）

①年間行事・事業

・定時総会
・宇城三郡市学術講演会
・宇城健康フェスタ
・お口の健康展
・会員健康診断

②現在計画中の事業

・昨年に引き続き訪問歯科への取り組みに対する更なる協力

③会の特徴

全世代を通して親睦がはかられており、会員同士の仲がとてもよい会である。新入会員も交えて下益城郡歯科医師会を益々盛り上げていきたい。

（田染 直子）

天草郡市歯科医師会（会長　森口　茂樹）

①年間行事、事業
・総会（４月）
・三師会ゴルフ＆親睦会（５月）
・長寿会（喜寿１人、古希１人、還暦３人）（６月）
・天草市健康フェスタ2019（６月）
・三師会合同研修会 歯科症例報告（８月）
（天草中央総合病院　田中 拓也先生）
・歯牙供養祭 天草歯科学術研修会（10月）
（北九州歯学研究会　上野 道夫先生）
・城南五郡市歯科医師会連絡協議会（11月）（球磨郡市主催）
他、毎月１回会員発表、又は外来講師による研修会

②現在計画中の事業
・老人保健施設無料検診
・歯科衛生士セミナー
在宅診療ネットワーク事業（ユマニチュード研修）
・医科外来講師による腎臓と糖尿病の研修会

③会の特徴
現在会員数64人、53歯科医院と近年増加し若い会員も微増している。会員同士の仲が良く、刺激しあいながら地域歯科に貢献できればと思っている。今回の執行部はメンバーが１人増えいろいろな事業にも取り組んでいきたいと思っている。

④その他
今年度も多職種連携に力を入れ、医師、薬剤師、社労士、看護師等を招いての講習会や研修会を予定している。

（青砥 圭吾）

宇土郡市歯科医師会（会長　田中　栄一）

①年間行事、事業
・総会
・理事会
・宇城三郡市合同役員会
・宇土地区医師会との役員交流会
・宇城三郡市合同学術講演会
・地域歯科保健事業の推進
訪問歯科診療・後期高齢者歯科口腔健康診査事業
・「歯と口の健康週間」および「笑顔ヘルＣキャンペーン」事業
・健康診断
・忘年会
・会員旅行

②現在計画中の事業
宇土地区医師会との役員交流のため家族参加型のバーベキュー懇親会を計画中。

宇城三郡市合同学術講演会（次回は宇土郡市が担当のため会場、講師を検討中。）
会員旅行を計画中。

③会の特徴
少ない会員数ながらも結束して、行事、事業に取り組んでいます。理事間での情報はＳＮＳを利用し、迅速に対応できるようにしています。地域の医科の先生との連携を深めています。

（近藤　俊輔）

委員会報告

在宅診療で直面する問題点と治療計画

― 多職種で取り組む食支援アドバンスコース ―

センター・介護

７月28日（日）午前10時より県歯会館において、日本歯科大学教授で口腔リハビリテーション多摩クリニック菊谷武院長に在宅における食支援～良くならなくても、食べられる方法教えます～と題し、ご講演いただいた。

はじめに、在宅診療で直面する問題点がいくつか列挙された。医科の場合は入院加療が一段落し、在宅療養に移行する場合は必ず入院先から在宅担当医に対して診療情報提供がなされる。ところが歯科の場合は訪問先で診療にあたる患者は、以前通院していた歯科医院から何ら情報提供もない状態から診療を開始しなければならないケースが非常に多い。近年医科－歯科連携が声高に提唱されているが、その前に歯科－歯科連携ができていないのではないか、という指摘があった。また、平成元年より取り組みが始まった、8020運動により、20年程前と比較して、自分で口腔清掃ができないにもかかわらず、残存歯が多い高齢者が増えている。この「多歯時代における多死時代」の状況で、以前は小児で問題視されていた「虫歯の洪水」が、高齢者の間で蔓延している現状があり、8020運動への取り組みが、果たして正解だったのだろうか、という疑問を感じる現状があるとのことであった。

次に、ADL（日常生活動作）が低下している高齢者においては、残存歯が多い程誤嚥性肺炎のリスクが上昇するとのデータが示された。また、残存歯が多い場合であっても、舌圧が低下している高齢者は肺炎のリスクが高く、さらには生命予後が悪いとのデータも示された。フレイルの状態からサルコペニアに移行しつつある高齢者では、抜歯の判断を躊躇すると、程なく通院できなくなり、その結果往診先で抜歯をしなければならなくなるケースも多発しているため、高齢者歯科治療においては、単に「できるだけ歯を残す」のではなく、患者の全身状態や社会的背景まで考慮して治療計画を立案する必要性があるのではないかと提唱された。

最後に、FOIS（Functional Oral Intake Scale）

菊谷先生の講演を熱心に聞く聴講者

という経口摂取状態を分類する方法の提示があった。

レベル１：経口摂取なし
レベル２：経管栄養とお楽しみ程度の経口摂取
レベル３：経管栄養と均一な物性の食事の併用
レベル４：均一な物性の食事のみ経口摂取（ゼリー食・ペースト食など）
レベル５：さまざまな物性の食事を経口摂取しているが、特別な準備や代償が必要（きざみ食のトロミかけなど）
レベル６：特別な準備は不要だが特定の食品の制限がある（やわらか食・軟菜食など）
レベル７：制限なく常食経口摂取

の７段階に分けて摂食状態を評価するものである。

食支援の介入により①改善を認めたのか、②現状維持ができているのか、③悪化したのか、を評価するツールとして用いることができるとのことであった。

超高齢化社会が一層進み、自医院での外来診療だけでなく、訪問歯科診療が必須になりつつある現在、従来通りの考え方、やり方だけではもはや通用しなくなってきていることを強く印象付けられる貴重な講演会であった。

（太田 宜彦）

委員会報告

認知症患者に対する実践的なケア

― 第２回多職種連携に係る研修会（天草会場）―

センター・介護

８月23日（金）午後７時より天草地域医療センターヒポクラートにて多職種連携に係る研修会が開催された。今回は群馬大学大学院保健学研究科老年看護学伊東美緒准教授による「優しさを伝えるケア技術ユマニチュード®」という演題での講演であった。

まず松本常務理事より挨拶があり、天草郡市医師会の酒井会長にもご挨拶いただいた。次に簡単な講師紹介を経て、講演が始まった。

ユマニチュードとは認知症患者さんに対するケアの技術でフランスでできた、ケアをする人とは何かという哲学に基づいた実践的なケアの方法であり、あなたは大切な存在であるというメッセージを相手が理解できる形で伝える、自分が尊重されていると感じてもらう具体的な技術を包括的に実施するケアのことということであった。

その実際の技術とは、見る・話しかける・触れることであり、具体的に同じ目の高さで正面から近くで長く見つめ、優しくポジティブな言葉で途切れなく話しかけ、広い面積で優しくゆっくりなでるように触れるという技術で、動画を用いて詳しく紹介していただいた。

また、心をつかむ５つのステップとして

①出会いの準備→自分が来たことを知らせる。

②ケアの準備→正面から近づき、目があったら話しかける。ケアの準備が終わるまでケア（仕事）については絶対に話さない。まず体のニュートラルな部分に触れる。ユマニチュードの見る・話しかける・触れるの技術を使う。３分以内に合意がとれなければケアは後にする。

③知覚の連結→常に見る・話しかける・触れるの技術３つのうち２つを使う。

④感情の固定→ケアの内容をポジティブに伝え、相手をポジティブに評価する。

⑤再会の約束

があり、それぞれの技術を動画を用いて詳しく解説していただいた。

動画を用いて詳しくユマニチュードを解説する伊東先生

最後に実際の口腔ケアの動画を見せていただき、肩や二の腕に一度触れ、日常会話をしてからケアに入ると効果的ということを教えていただいた。

質疑応答後、森口会長より謝辞があり、研修会は終了となった。

今回の研修会は定員100人で予定していたがそれを大幅に上回る多数の方にご来場いただき大盛況な研修会となった。

伊東先生、本当にありがとうございました。

（山本 康弘）

委員会報告

ユマニチュード実践方法論

― 第２回多職種連携に係る研修会（熊本会場）―

センター・介護

８月24日午後４時より県歯会館４階ホールにて標記研修会が行われた。昨年「他職種でつなげる食支援」アドバンスコースの第２回として「優しさを伝えるケア技術ユマニチュード®」という演題で、群馬大学大学院保健学研究科伊東美緒准教授に再びご講演いただいた。今回は、前回より多くの多職種の方に来ていただけるよう定員を昨年よりも多く広く募集した結果、歯科医師、歯科衛生士はもとより、医師・看護師・介護士・ヘルパーなど100人を超える多くの方々が参加されその関心の大きさと熱心さが伺えた。内容は昨年同様にケアを必要とする全ての人の為に、フランスで35年以上かけて研究実践されてきたユマニチュード®という技術を入門編として特に認知症ケアの実践方法論をわかり易く動画を使いながらご教授頂いた。人としての尊厳を守る認知症ケアとしてケアされる側の立場に立ち、見る（同じ高さで正面から視線を合わせ）・話す（おだやかに）・触れる（掴まない）・立つ（支える）などの技術を、認知症の方が不安を抱きやすいといわれる横になる・ライト（まぶしい）・マスク（こわい）・口を開ける（はずかしい）・両サイドから話しかけられる・尖った道具などの環境が揃った我々歯科診療の現場でどの様なことに気を付けて対処するべきか大いに参考になった。

昨年以上の100人を超える参加者で開催された。

最後に認知症の方の心をつかむテクニックとして

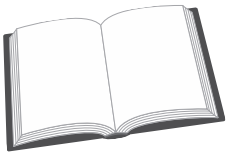
①出会いの準備
②ケアの準備
③知覚の連結
④感情の固定
⑤再会の約束

の５つのステップは我々の口腔ケアにも大変参考になるものであった。２時間という短い講演であったが、出席者は熱心に聞き入っており、講師の伊東先生へ多職種の方からも質問がでるほど非常に有用な講演会となった。

（大坂 栄樹）

関連書籍

単行本
「ユマニチュードと看護」
HUMANITUDE　AND　NURSING



2019/2/25

編集　本田美和子
伊東　美緒

医学書籍

委員会報告

高齢化社会を見据え、多数の会員が参加

― 後期高齢者歯科口腔健康診査研修会 ―

地域保健

７月27日（土）午後３時から県歯会館４階ホールで、標記研修会が開催された。開会の後、挨拶を伊藤会長が行った。その中で、最近、地域包括ケアということが言われて久しいが、このシステムの中で、フレイルとどう向き合っていくかとの問題が取り沙汰されている。特に、口腔機能の維持が、フレイルの防止にかなり重要な位置を占めるということが言われて始めているということを話された。

講演１で“口はどう老いていくのか？要介護者の現状と問題点”という演目で、日本歯科大学教授兼口腔リハビリテーション多摩クリニック菊谷武院長が講演された。先生は、高齢者歯科の専門で、フレイルと介護や、サルコペニアとの関係、オーラルフレイル（咬合力の低下、舌運動機能の低下、咀嚼障がいの分類）、咬合維持・咬合支持など、臨床における治療計画についても話され、大変中身の濃い内容であった。

講演２で“口腔機能低下症の保険算定について”という演目で、社会保険委員会の舩津理事が話された。現在、国の方針として高齢者における歯科治療や予防が重要視され始めており、保険点数の導入や点数の増加が行われてきている。だが、それに伴い、口腔機能低下症における検査と診断の算定法がわかりにくいという意見があることを受けて、この点を詳細に分かり易く説明していただいた。

講演３で、“健診後の保険診療への移行と継続管理の実際”という演目で会員の田上大輔先生が話された。先生は講演２の演目の内容を実践されており、その結果を具体的な数字で示して説明された。また、後期高齢者健診事業における独自の分析をしており、そこで用いたツールなども話された。

高齢者歯科専門医の立場から、詳しく話される菊谷先生

最後に、松本常務の謝辞では、以前は“高齢者の歯科関連の講演会は人が集まらなかったが、最近は本当に多くの方が講演会に来てもらえます”と言われた。実際、今回100人を超える参加者があり、ホールの後部では追加の椅子が用意されるほどであった。閉会を地域保健委員会の長野理事で締めくくった。令和初、伊藤執行部初の研修会としては、大盛況であった。

これは一重に会員の先生方の高齢者歯科への関心が高く、今後日本の超高齢化社会において我々歯科が専門家として大きな一分野を担うということを認識されているからと思われる。また現在、熊本県において後期高齢者歯科口腔健診事業が展開されているが、行政の方も本研修会を聴講されており、この事業において益々の追い風になることを切に期待したいと思う。

（赤尾 浩彦）

委員会報告

歯科領域との交わりを確認

― 低ホスファターゼ症講演会 ―

地域保健

８月10日（土）午後３時から県歯会館３階会議室において、標記講演会が開催された。伊藤会長より、現在県歯では様々な医科歯科連携が展開されているが、今回低ホスファターゼ症においては、小児科との連携が必要となる。こうした様々な連携をとおして、歯科の重要性を皆様に周知できれば良いと思うと挨拶があった。講演会に移り、講演１で「治療可能な希少疾患低ホスファターゼ症」という演目で熊本大学小児科学講座中村公俊教授が講演された。先生の専門は先天性代謝疾患であり、本症例に留まらず、広い見地から代謝性疾患について話された。また、県での拡大新生児スクリーニング、それらの疾患の診断、さらに、機序や病態などの臨床を、レントゲン写真やグラフに示して、分かり易く説明していただいた。その中で、ハイリスクスクリーニングにおいては、歯牙の早期脱落は有効であることと、疑わしい場合は直接、熊本大学小児科へ紹介して下さいと強調された。次に、講演２で「歯科医師が早期発見できる全身疾患～低ホスファターゼ症～」という演目で、大阪大学歯学研究科小児歯科仲野和彦教授が講演された。仲野先生は、本邦で本疾患の牽引役と言われている方で、多くの症例を臨床で診てこられている。また日本各地での取り組みについても話された。今回、多くの臨床症例を写真やレントゲンで分かり易く呈示されて、歯科領域における治療法など説明された。また、小児科との情報交換も重要であることを強調された。質疑応答では、実際低ホスファターゼ症の患者を紹介したことについての質問や現在、疑わしい方が通院しているがどのようにしたら良いかとの質問があった。最後に謝辞で松本常務より、口腔保健センターでは、本疾患が希少とはいえ、センターの性格上かなり高い頻度で来院される可能性があり、見落としが無いように明日からの臨床に生かしたいと述べられ、高水間理事の閉会で締めくくった。現在、低ホスファターゼ症に関して、県歯のホームページにバナーを貼って詳細記事に行くようにしており、一般県民が閲覧可能となっている。本疾患は希少な疾患ではあるが、今後は、この疾患が歯科医院で発見できることを県民が知って、早期発見早期治療につながればと切に望むところである。

専門医のお二人に症例を交えて講演いただいた

（赤尾 浩彦）

県歯ホームページよりクリック！

委員会報告

学校歯科医の定年、児童の医療費助成など議論が白熱

― 九州地区学校歯科医会役員連絡協議会 ―

学校歯科

８月24日（土）午後２時より、大分県歯会館２階ホールにて、「九州地区学校歯科医会役員連絡協議会」が行われた。

大分県理事の司会進行のもと、まず大会長の長尾会長の挨拶があり、歯科の疾患から予防管理への対応の話が述べられた。次に日本学校歯科医会の川本会長の挨拶と続き、協議における座長・副座長選出では開催県である大分県の長尾会長が座長、次期開催県（福岡県）の杉原会長が副座長に選出された。協議に先立ち、「全国学校歯科保健研究大会」で優秀賞を受賞された、大分県日田市の『こども園るんびにい』の岩橋道世副園長より『発達の連続性を考えた取り組みの深化』の演題で講演が行われた。非認知能力・見えない学力・生き抜く力について園での取り組み、それによる園児の成長、愛着関係を通して様々な活動と健康な身体作り、また、食べる力で口唇・呼吸を鍛えるなど、歯科においてとても参考となった。もっとより多くの会員、学校歯科医の先生に聞いて頂きたいし、また私自身も学校歯科医として、まだまだやれること、やるべきことがたくさんあると感じた講演であった。

講演後、日本学校歯科医会の長沼専務理事により日本学校歯科医会報告があり、特に日学歯のHP上にて学校歯科医の検診のばらつきを軽減するために歯肉の様々な状態を示したQ＆Aを作成し、是非活用してほしいとの話があった。

「発達の連続性を考えた取り組みの深化」について講演する岩橋副園長

活発な意見を交わす各県担当者

その後以下の協議に入った。

⑴　令和元年度九州各地区学校歯科関連事業計画

⑵　各地区提出協議題

⑶　日本学校歯科医会への質問及び要望事項

⑴では熊本県としてフッ化物洗口事業における協力と継続を。また、日本学校歯科医会への会員増強と基礎研修・更新研修の開催について石井理事から話があった。特に⑵の協議では各県活発な意見が出され、主なものとして学校歯科医の定年について各県での対応、働き方改革によって学校歯科保健委員会の開催時間など、どのような対応がなされているか、また、各県における児童に対する医療費の助成（無償）の小中高での進捗状況とその影響についてなど、様々な意見が出され、協議を行っていった。協議事項が盛りだくさんで、盛夏の暑さに負けぬ熱い協議、議論がなされ、時間も足りないくらいであった。

全日程終了後は、懇親会場に場所を移し、日本学校歯科医会会長や専務理事にも参加いただき、各県の役員の先生方とも深い懇親を交わし、大盛会のもとに終了となった。

（高田 宗秀）

上益城郡歯科医師会

糖尿病の病態から医療連携を考える

― 三師会合同勉強会・懇親会 ―

８月３日午後５時よりリハビリテーションセンター熊本回生会病院に於いて、上益城郡三師会が開催された。熊本大学病院 糖尿病・代謝・内分泌内科近藤龍也講師より「高齢者糖尿病治療ガイドラインに基づく治療戦略」、嶋田病院赤司朋之内科部長より「医科歯科連携はなぜ必要か～糖尿病の病態から考える歯周病との相互関係～」と題してご講演いただいた。

近藤先生からは、糖尿病治療においてDPP-4阻害薬とメトホルミンを併用することの有用性について詳しくお話いただいた。

赤司先生からは、勤務先のある小郡市・嶋田病院での糖尿病患者に対する多岐にわたる取り組みについてお話があった。まずは医科－医科連携について、入院加療を要した糖尿病患者が退院する際には、連携コーディネートナースが診療情報提供書に加えてクリニカルパスシートを渡してかかりつけ診療所へ引き継ぐ。そこで診療経過をパスシートに記載しながら経過を追っていき、半年～１年ごとに嶋田病院を再受診させる。そこで病態を再評価して新たなパスシートを出すというサイクルで退院後も効率的かつ継続的に診療を行う体制を作っている。次に医科－歯科連携について、地域の歯科医師に対して研修会を開催し、糖尿病と歯周病の関連について周知を図った上で、患者に対して歯科受診を促す。その際には糖尿病連携手帳を持参させて記載必要項目を歯科医院で記入してもらう。最後に薬剤師間での連携について。病院薬剤師、院外薬剤師、管理栄養士、医師、コーディネートナース参加の勉強会を開催し、薬剤師からも患者に対して糖尿病の病態説明や、薬剤服用および食事療法の必要性について説明できるようになってもらうという内容であった。

医療連携の必要性を確信する参加者たち

以上のような多方面からの取り組みの結果、小郡市では透析患者の割合が福岡県内で一番少ない地区となったという。上益城郡は透析患者の増加に伴う医療費の増加が問題になっている背景もあって、60人を超える参加者は皆熱心に耳を傾け、医療連携を共に進めていこうと誓い合う素晴らしい講演会となった。講演会終了後は赤司先生を交えて懇親会を行い、令和初の三師会は大盛況であった。

（太田 宜彦）

球磨郡歯科医師会

歯科治療中の全身偶発症の予防と対処法

― 第１回人吉球磨合同学術講演会 ―

８月24日（土）標記講演会を開催した。

講師に福岡徳洲会病院怡土信一歯科部長をお招きし「歯科治療中に発生する全身的偶発症の予防法と対処法」についての講演をお願いした。内容が歯科治療中の全身的偶発症であるため、偶発症発生時にはスタッフ全員の協力が必要なため、スタッフも含めた人吉球磨の歯科医療従事者が参加可能な講演会とした。怡土先生もスタッフにも理解しやすいように懇切丁寧に解説され、偶発症の発生メカニズムとそれに対しての対処法などを指導して頂いた。内容は、日々の診療中に少なからず遭遇する様々な事例を数多く取り上げてもらい、スタッフも含め今一度初心に戻り考えさせられる講演会であった。

怡土先生の講演に熱心に聞き入る

講演会後は怡土先生を囲み、球磨焼酎を酌み交わしながらの懇談会で、質疑応答まで含めて楽しい夜を過ごした。

（塚本 卓也）

天草郡市歯科医師会

実臨床における抗血小板薬・抗凝固薬の使用について

― 第10回天草郡市三師会学術講演会 ―

８月31日（土）午後５時より天草地域医療センターヒポクラートにて標記講演会が開催された。まず医師会の酒井会長より開会の挨拶をいただいた。

その後、講演が始まり今年度は医師会、歯科医師会、薬剤師会よりそれぞれ１名の先生にご講演いただいた。まず薬剤師会からファイン薬局薬局長の今里先生に「抗血小板薬・抗凝固薬の分類」という演題で、次に歯科医師会から天草中央総合病院 歯科口腔外科 医長の田中先生に「血小板薬・抗凝固薬投与患者における観血的歯科治療について」という演題で、最後に医師会から中山内科・循環器内科クリニック院長の中山先生に「抗血小板薬・抗凝固薬の使用について～最近の知見をふまえて～」という演題でそれぞれ講演いただいた。各先生方の講演内容は大変勉強になったが、特に田中先生の講演は実際の症例を呈示しながら、抜歯後出血の止血方法を詳しく解説され勉強になった。

その後休憩をはさみ、医師会のやまうち医院

実際の症例を元に詳しく解説いただいた

院長の山内先生を座長に３人の先生のパネルディスカッションが行われ、実臨床における抗血小板薬・抗凝固薬の使用について様々な意見交換が行われた。

最後に、歯科医師会の森口会長より閉会の挨拶をいただき、講演会は終了した。

その後、場所を移し、食事を囲みながら意見交換会が行われ、それぞれ異業種の先生との親睦を深めた。

（山本 康弘）

下益城郡歯科医師会

イベント開始前から大盛況！

― 歯の健康展 ―

６月８日（土）14時よりイオンモール宇城にて歯の健康展のイベントを行った。

今回は宇城広報と、イオンの広報に前もって告知をお願いしてあった為、イベント開始時間前から行列が出来るという盛況ぶりだった。待ち時間の間、数人の方からお話を伺うと、「毎年ここで検診を受けて虫歯があれば歯医者に行きます。」という親子や、「フッ素を無料でぬってもらえると書いてあったから並んでいます。」「イオンに来てイベントの旗が目に入ったので来ました。」等といった声が聞かれた。

中には「ＳＮＳ、タイムラインで知って八代から家族で来ました。」と歯の健康展が目的で来場されたご夫婦にもお会いできた。

実際、検診を受けた子供の齲蝕罹患率は低く、フッ素等の活動の成果が出ているのではないかと推測された。大人は恥ずかしいと検診を受ける人が少なく、ベンチで休憩している方に声をかけても「子供じゃないから……。」と言って断られた。子供のいる家族と高齢者では、このイベントに対する温度差があるようだ。

今回は歯周病の仕組み、歯周病予防が全身の健康にも深く関係している事等も掲示したが、高齢者の来場が少なかったことが今後の課題であり、今後は高齢者へ向けての広報活動も重要な問題であると考えられた。

イベント開始前から大賑わい

来場者

内訳　大人　男27人　女75人　計102人
　　子供　男50人　女55人　計105人
　　総人数207人　組数125組
　　前年比　+50

（田染 直子）

玉名郡市歯科医師会

今年も熱い議論が交わされた

― 平成30年度定時総会 ―

６月22日（土）司ロイヤルホテルにおいて、平成30年度定時総会が開かれた。開会に先立ち、物故会員に対する黙祷が行われた後、髙﨑会長の開会の挨拶で定時総会が始まった。まず慶事のお祝いとして還暦（中村浩一会員）と古希（増田憲敏会員）の両会員に記念品が贈られた。次に新入会員として松原良太会員が紹介され、自己紹介と今後の抱負を語ってもらった。

議長と副議長に森会員と鳴尾会員が選出され、執行部より代議員会報告や評議員会報告、平成30年度下半期の会務報告、一般会計報告などの各報告が行われた。続いて議事に入り、３つの議案について協議がなされ、全て承認可決された。その他の議案として玉名郡市の休日診療アンケートについてと、長洲町の成人および妊婦歯周疾患検診についての協議が行われ、とくに休日診療については各会員から様々な意見が出され、熱のこもった議論が交わされた。

熱のこもった議論が交わされる

その後懇親会会場に場所を移し、楽しく歓談しながら盛会のうちに終宴となった。

（月精 秀和）

リレー投稿 34

わたしの生まれ故郷について

玉名郡市　福地 正貴

はじめまして。南関町で開業してます福地正貴と申します。

さて私は、皆さんになじみの薄い（笑）私の生まれ故郷、岐阜県について投稿したいと思います。

私は岐阜県大垣市という場所で生まれました。中学までは地元の学校に進学し、その後名古屋市内の高校を選択しました。そして鹿児島大学へ進学し現在に至ります。

岐阜県？あんまり行ったことがない県の５つには入るのではないでしょうか。うちのスタッフには、「先生の地元の琵琶湖ってかなり大きい海なんですよね。泳げるんですか？」って聞かれるぐらい、意外とよく知られていないマイナーな県の代表格です。「琵琶湖があるんは、滋賀県やがね。ほんで、海やなくて、湖だがね。（岐阜弁）」と、にっこり顔で答えてますが、心では泣いてます。（笑）

ひと昔前大垣というのは、鈍行の夜行列車（通称大垣夜行）の終着駅で、東京駅を夜12時前に乗れば朝の７時頃、大垣に到着するといった格安の夜行列車が利用できました。高校時代は友達といかに安く東京に遊びに行って帰ってこれるか、というノリで利用したものです。但し椅子なんてリクライニングなんてもってのほか、ほぼ垂直の椅子にお互い寄りかかりながら、激しい揺れの中、睡眠不足と体中節々の筋肉痛に悩まされながら往復したものです。まだ電車の中でタバコが吸える

乗りごこちは最悪……（笑）

通称：大垣夜行

時代でしたし、混雑時には通路やロビーで新聞紙を敷いて横になっておられる猛者の方もいらっしゃいました。現在は利用者も減り廃止になったと聞き寂しい限りです。鉄道にお詳しい先生なんかだと、ご存じの先生もいらっしゃるのではないでしょうか。

あとそうですね。甲子園によく出場する大垣日大高は私の中学校の隣にあり、中学の時は授業を横目に甲子園に出るかも知れない、高校球児の先輩方の野球の練習を毎日見学していたものです。

よく皆から言われる方言ですが、みゃぁ、みゃぁとか、エビふりゃぁ（笑）、とはさすがに言いませんが、車で急に危ない運転をされたりすると「なんちゅう運転しとるんだ。このたわけが！」なんて、言葉の端々にふと出てしまう癖はいまだ抜けません。当然この昨今怖いので、車の中でこっそり叫んでるだけですが…。東海地方独特の方言で高校まで育ち（家内は、いまだに言葉が荒い。といいますが）、鹿児島に大学進学でやってきて、それはそれはまた特徴のある薩摩言葉に長年苦労し続けました。いや、し続けるでしょう。というのは、家内は生粋の鹿児島育ちであるからです。何か言われても、わからないときは、笑顔でにっこり。これに尽きますね。

さて、これもあまり知られてませんが、鹿児島県と岐阜県は姉妹県、鹿児島市と大垣市は姉妹都市であります。家内は何故か知って

ました。木曽川、長良川、揖斐川の毎年のように洪水に悩まされ続けた岐阜県の西濃地区は、川の流れを変え大堤防を築く宝暦治水工事によって洪水のない安全に暮らせる土地になりました。この大治水工事に一役買ったのが薩摩藩の家老、平田靱負でした。大工事の末、大きな人的被害と金銭的損害の責任を取り平田靱負は最期は自害し償いました。強大な薩摩藩の財政を弱体化させようという江戸幕府の目論見で行われた大事業でしたが、美濃、伊勢、尾張の国にとっては、後世まで伝えられる救世主となったわけです。私の地元の年配の方々は、「鹿児島の皆さんには足を向けて寝られない」って話してたことがあります。私が鹿児島大学を進学先に選んだ際、祖父が「これも何かの縁なんだなぁ」とこの話とともに感慨深く話していたのを思い出します。

来年のＮＨＫ大河の「麒麟が来る」は、明智光秀が主役ですが、明智光秀の生まれは私の生まれた美濃国（岐阜県）です。今岐阜県では来年の大河放映に向けてイベント尽くしです。斎藤道三をはじめ、織田信長、今川義元など、戦国時代を群雄割拠した武将たちのラインナップを見るとワクワク感が止まりません。いまの「いだてん」も玉名・南関・和水地区が舞台となりました。日曜の夜８時台は、ここしばらくテレビの前から離れられません。

来年の大河ドラマ「麒麟が来る」

このくらいでもう岐阜のお話はおなかいっぱいですね。私の文章を読んで、「今度岐阜にでも行ってみるかな」とご興味がわいたら何よりです。

次は同じ玉名郡市でお世話になっています社保のエキスパート、桐野美孝先生にバトンをお渡しします。

リレー投稿にご協力を

指名があったら是非とも投稿をお願いします。
次回は先生に依頼があるかも？

ご　訃　報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

宮本加洲彦 先生
令和元年８月30日　ご逝去　82歳

- 郡　市　名：八代
- 入会年月日：昭和41年４月21日

鈴木　勝志 先生
令和元年９月９日　ご逝去　80歳

- 郡　市　名：熊本市
- 入会年月日：昭和48年４月１日

新入会員 NEW

①今もっとも関心のあることを教えてください。
②自分が希望する歯科診療とはどのようなものだとお考えですか。
③他の歯科医院にはない自分の医院の特色を教えてください。
④今後の抱負は何ですか。

第１種会員

匠原　　健
（ショウハラ　ケン）

熊本市中央区帯山3-7-33

しょうはら歯科口腔機能
クリニック

①IOSによって歯科医療が構造的にどのように変化していくか。一方で、IOSによっても不変な歯科医師に求められる技術が何なのか。
②患者さんを幸せにするのは当然だが、歯科医師自身、スタッフ、家族が幸せだと感じられるような歯科診療。
③口腔機能に着目し、治療前後で客観的評価を行うことで治療の効果を確認し、自らのエビデンスとして蓄積していく。
④まずは地域の方々に認知していただく事からコツコツと努力し、保険診療を中心に焦らず地道に良質な歯科医療を提供していきたい。

第３種会員

田村　知丈
（タムラ　トモヒロ）

宇城市松橋町浦川内824-8

吉永歯科医院

R．1.10

会　務　報　告

自　令和元年７月29日
至　令和元年８月22日

所管	日付	摘要	出務者
総　務	７月29日	災害歯科医療研修強化事業打合せ会 （１）災害歯科医療研修強化事業（２）災害歯科医療研修会（案） （３）今年度のスケジュール	牛島専務理事、宇治常務理事
	31日	第３回理事会 【承認事項】 （１）新入会員の承認（２）保存期間を経過した会計帳簿の廃棄 【議　　題】 （１）災害対策基金管理・運営規程（案）（２）震災復興事業に係る要望（案） （３）災害歯科保健医療体制研修会への参加者　ほか	伊藤会長他全役員
	８月３日	第１回九州各県会長会（ホテルニューオータニ佐賀）	伊藤会長
		第１回九地連協議会（ホテルニューオータニ佐賀）	伊藤会長、宮井副会長、牛島専務理事、永松常務理事、田原事務局長
		九地連総会（ホテルニューオータニ佐賀）	伊藤会長、宮井副会長、牛島専務理事、永松常務理事、田原事務局長
	５日	支払基金熊本支部長着任あいさつ	伊藤会長他
	５日	県歯・熊本市歯役員合同懇談会（熊本市）	伊藤会長他松本常務理事、三森理事を除く全役員
	６日	第３回常務理事会 （１）新入会員の承認（２）タウンミーティングの開催（３）九州歯科医学大会in熊本　ほか	伊藤会長他常務理事以上全役員
総　務	７日	九州厚生局長着任あいさつ	牛島専務理事
		「死因究明等の推進に関する政策評価」に関するヒアリング	牛島専務理事、永松常務理事
	13日	県救急医療連絡協議会（県医師会館）	牛島専務理事
	17日	在宅歯科医療連携各郡市担当者会 （１）熊本県における在宅歯科医療の取組み（２）連携室の概要・実績 （３）令和元年度の連携室の取組み　ほか	伊藤会長、牛島専務理事、松本・宇治常務理事、長野・五島理事他14名
	19日	第１回選挙管理委員会 （１）正・副委員長の互選（２）委嘱状の伝達	山口委員長他全委員
	20日	益城町に係る要望書提出（自民党県連）	伊藤会長、牛島専務理事
		第４回常務理事会 （１）新入会員の承認（２）熊本県歯科衛生士会第11回県民公開講座の後援依頼 （３）第15回九州矯正歯科学会大会（熊本）の後援依頼　ほか	伊藤会長他椿副会長・松本常務理事を除く常務理事以上全役員
	21日	裁定審議委員会	伊藤会長他、委員
学　術	８月７日	第１回日歯国際渉外委員会（日歯会館）	伊藤会長
		第107回FDI世界歯科大会日歯代表団打合せ会（日歯会館）	伊藤会長
	17日	日歯生涯研修ライブラリー撮影・取材	牛島専務理事、宇治常務理事
社会保険	８月６日	社会保険個別相談会　相談者：１名	舩津・野田理事、園田副委員長
	８日	保険個別指導（KKRホテル熊本）	舩津理事、井口・小林委員
地域保健	７月29日	協会けんぽスモールチェンジ・生活歯援プログラム健診（２日目）（株式会社みらい） 受診者：14名	歯科衛生士２名
	８月９日	協会けんぽスモールチェンジ・生活歯援プログラム健診（菊池電子株式会社）　受診者：10名	歯科衛生士２名
	10日	低ホスファターゼ症講演会 講演１：「治療可能な希少疾患　低ホスファターゼ症」 熊本大学小児科学講座　教授　中村公俊先生 講演２：「歯科医師が早期発見できる全身疾患－低ホスファターゼ症－」 大阪大学歯学系研究科小児歯科　教授　仲野和彦先生　受講者：63名	伊藤会長、松本常務理事、長野・高水間理事他７委員
広　報	８月９日	広報小委員会 （１）第１校校正（２）追加原稿編集	神崎理事、秋山委員長、髙崎副委員長他全委員
学校歯科	８月３日	県体育協会メディカルチェック（熊本市医師会ヘルスケアセンター）	宮井副会長
	７日	第17回九州地区健康教育研究大会（大分大会）分科会打合せ会（いいちこ総合文化センター）	石井理事、宮坂会員
	８日	第17回九州地区健康教育研究大会（大分大会）分科会（いいちこ総合文化センター）	石井理事、宮坂会員
		県体育協会メディカルチェック判定会（アークホテル熊本）	宮井副会長
	15日	県PTA共済審査委員会（県総合福祉センター）	西野会員
	18日	第58回熊本県学校保健研究協議大会（八代市公民館）	伊藤会長、宮井副会長、宮崎副委員長
医療対策	８月22日	医療対策委員会 （１）事例報告検討（２）各郡市医療相談担当者会（３）委員提出協議題　ほか	椿理事他全委員
センター・介護	８月３日	第３回九州歯科フォーラムin長崎懇親会（長崎市）	松本常務理事
	４日	第３回九州歯科フォーラムin長崎（長崎県歯会館）	松本常務理事
	６日	口腔保健センター管理運営委員会 （１）センター運営	伊藤会長他常務理事以上全役員、藏本委員
	20日	熊本県在宅医療連合会実務者会議（県医師会館）	松本常務理事
厚生・医療管理	８月７日	厚生・医療管理小委員会	工藤理事、牧委員長、池嶋副委員長、町田委員
	８日	山鹿市健康診断（鹿本郡市医師会館）	
	17日	天草郡市健康診断（天草地域健診センター）	
医療連携	７月29日	医療連携委員会 （１）委嘱状伝達（２）熊大病院緩和ケアセンター広報部	伊藤会長、牛島専務理事、宇治常務理事、三森理事他全委員
	８月２日	医科歯科病診連携推進事業（回復期）打合せ （１）回復期医科歯科連携事業実績報告（２）回復期医科歯科連携事業（案） （３）今年度の委託事業スケジュール	牛島専務理事、宇治常務理事、三森理事
	５日	熊本県医療・保健・福祉連携学会第１回企画委員会（県医師会館）	三森理事
	７日	医科歯科病診連携推進事業（がん診療）・ヘルシー元気8020支援事業打合せ （１）がん医科歯科連携事業実績報告・今年度事業案 （２）ヘルシー元気8020支援事業実績報告・今年度案（３）委託事業スケジュール	牛島専務理事、松本・宇治常務理事、三森理事、赤尾地域保健副委員長
学　院	７月31日	第３回理事会	林学院長
	８月４日	第２回学院体験入学　参加者：34名	林学院長、秋山副学院長
	13日	学院生夏季休暇（至９月20日）	
	18日	第３回学院体験入学　参加者：22名	林学院長、秋山副学院長
国保組合	８月９日	県組合地区国保運営協議会（県医師会館）	伊藤理事長、上野副理事長、桑田常務理事他２名

其の1

会員専用グループ保険制度のご案内

今年度から保険料がさらにお安く

最高「3000万円」の保障が無診査で加入OK

配偶者も1000万円まで加入OK

1年更新で配当金は毎年加入者へ還元

※昨年度実績40%還付

グループ保険は歯科医師会が契約者で
保険料を一括納付しています。
会員だけがいつでも自由に加入できる制度です。

其の2

既に下記の保険会社でご加入の会員様も保険料納付は団体収納扱いでお願いします！

下記の保険会社と団体収納契約をしておりますので
会費明細引きがご利用できます。

個人でご加入した保険料が団体割引でお安くなり、
保険内容に何も影響ありません。

手続きは簡単、事務局が代行します。ぜひ便利でお得な制度をご活用ください。

朝日生命　アメリカンファミリー生命　住友生命　損保ジャパンひまわり生命
第一生命　日本生命　富国生命　明治安田生命　メットライフ生命

[県歯事務局　TEL：096-343-8020　担当：平畑]　までご連絡ください

新時代、令和
福岡歯科大学は、生まれ変わります。

令和2(2020)年度入試より特待生制度のリニューアル

専願特待生制度の新設…本当に福岡歯科大学に入学したい受験生に対しての特待生制度に変更

学生納付金(6年間)が **1,980万円**に!≪通常2,630万円≫

詳細は、本学HPにて

令和2(2020)年度 入試日程

● 一般入試A日程	令和2年	2月 1日(土)
● センター利用入試Ⅰ期	令和2年	2月 4日(火)
● 一般入試B日程	令和2年	3月 7日(土)
● センター利用入試Ⅱ期	令和2年	3月 7日(土)
● AO入試Ⅱ期	令和2年	3月20日(祝)
● センター利用入試Ⅲ期	令和2年	3月20日(祝)

令和2(2020)年度学士等編入学試験〈大学2年次に入学〉

● 第1回	令和1年	11月17日(日)
● 第2回	令和2年	3月20日(祝)

2020年秋
新病院開院予定

学校法人福岡学園　福岡歯科大学 学務課入試係
TEL.092-801-1885　FAX.092-801-0427
https://www.fdcnet.ac.jp/　Eメール nyushi@college.fdcnet.ac.jp

Kumamoto Prefecture Dentistry Medical Association Report
October 2019 No.760

主な行事予定 11 November

5日(火)	第9回常務理事会
17日(日)	笑顔ヘルCキャンペーン中央イベント（熊本市びぷれす広場）
	学院「熊歯衛祭」
19日(火)	第10回常務理事会
26日(火)	第7回理事会

熊本県歯科医師会
安心・安全歯科医療推進制度

編集者のつぶやき

今回で二期目になりました。前期は他の先生が経験者だったためこちらが分からない事は、すべて先生方に聞いたりして訂正方法や言葉使い、句読点の使い方など校正に必要な知識を色々勉強させて貰いました。（とても、お世話になりましたありがとうございました。）今回は経験者が少ないため出来るなら参加してと頼まれたため今期も手伝うことになりましたが、まだ二年ほどしか委員会の経験がなくうまく出来ず未熟だと思うことが多々あります。（残念ながら…）これからの二年間は今まで教わってきたことや覚えてきたことをしっかりやっていきたいと思います。

(M. K)

熊本県ご当地よ坊さん

■発行日／2019年10月7日発行 ■発行人／伊藤 明彦
■発行所／一般社団法人 熊本県歯科医師会
〒860-0863 熊本市中央区坪井2丁目4番15号
TEL／096-343-8020 FAX／096-343-0623
URL／http://www.kuma8020.com
■印刷所／コロニー印刷